

産業厚生委員会委員長報告（予算）

1.委員会開催日	令和2年12月9日
2.付託件数	4件
3.審査経過	下表のとおり
4.結果	原案可決

議案第5号 令和2年度室戸市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について

所管課	款項目	質疑内容	答弁内容
市民課	(事業勘定)	質疑なし	
地域医療対策課	(直診勘定)	歳出の補正額382万4千円の内訳は。	一番大きなものは2款1項1目10節の医薬材料費である。診療日数が増えたため、医薬材料費(薬)も増えている。また、会計年度任用職員については新型コロナウイルス感染症対策ということで増額したものである。
		医師が常勤になってから診療日数がどれ位増えたのか。	これまでは月、水、木の午後からの診療であったが、現在は月曜日から金曜日まで午前から開いているため診療時間が大きく伸びた。
		患者数の推移について。	昨年10月末まで1,549名であったものが、令和2年10月末では2,096名で、約35%増加している。

議案第6号 令和2年度室戸市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について

所管課	款項目	質疑内容	答弁内容
保健介護課	(歳入) (歳出)	歳入歳出の補正額23億3,097万8千円は例年と比べ増減しているか。	昨年と比べてほぼ横ばいの金額になっている。人口は減っているが高齢化率は上がっているため、介護サービスを使う件数が多くなっている。

議案第7号 令和2年度室戸市海洋深層水給水事業特別会計補正予算（第2号）について

所管課	款項目	質疑内容	答弁内容
産業振興課	1-1-1-14給水施設整備工事費	今回受水槽増設工事を行うに至った経緯はどのようなことか。	これまで繁忙期に給水量より配水量が多くなり、給水できないことがあった。現在50トンのタンクに100トンのタンクを増設し、貯水量が3倍になるよう計画している。今回の増設により、企業に安心して操業頂けるものと考えている。
		受水槽の運営はどうするのか。	海から高岡漁港内の取水ピットに深層水を汲み上げ、そこから2基の取水ポンプでアクアファームに送っている。その間2つのタンクを経由することとなる。通常時はそれぞれのタンクを経由して機械室に入って送られるが、故障やメンテナンスの時はバルブを切り替えて片方だけ通るような形にし、施設を長く維持することができるようになると考えている。
		急激な給水量の増加の具体的な例とはどのようなものか。	パイプラインでアクアファームから深層水を直接自社の工場にひかれた会社が、繁忙期に工場をフル稼働した時などに一気にバルブを開けばなしにしたため、受水槽が枯渇してしまったことがあった。
	1-1-1-17給水事業用備品購入費	備品購入費は何を購入するのか。	今回ポンプ1基を購入するもので、高岡漁港内からアクアファームに深層水を送るためのポンプ2基の予備として購入する。このポンプは受注生産で、壊れた時に据え替えるのに期間を要するため、有事の際もすぐ設置できるように備えておくものである。

議案第8号 令和2年度室戸市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）について

所管課	款項目	質疑内容	答弁内容
市民課	1-1-1-12後期高齢者医療システム改修委託料	委託料118万8千円の内容について。	税制改正により令和3年度から個人所得課税の見直しがあるため、それに対応した後期高齢者システムの改修委託料である。
	(歳入) 5-2-1-1雑入	高齢者医療制度円滑運営事業費補助金の内容について。	システム改修費全体に対する約20%の補助金を計上している。 なお、後期高齢者の連合会から報告を受けた10月末の市内の被保険者数は3,303名で、人口の約26%である。

産業厚生委員会委員長報告（その他）

1.委員会開催日	令和2年12月9日
2.付託件数	1件
3.審査経過及び結果	下表のとおり

議案第9号 室戸岬夕陽ヶ丘キャンプ場における指定管理者の指定について

質疑内容	答弁内容	審査結果
キャンプ場の人員体制について。	草刈りなど施設の維持管理や料金の収受を行う現場の管理人が1名。他に事務所で電話等の対応をする方で、人役的には1人 1. 5時間観光協会の職員がローテーションで行っている。	原案可決
キャンプ場の使用料等について。	オートサイトは1区画あたり2,200円で計4区画。テントサイトは1区画あたり1,100円で計20区画ある。	
キャンプ場の年間の利用者は何名か。	平成27年度が1,201名、平成28年度が947名、平成29年度が1,282名、平成30年度が1,513名、令和元年度が1,771名となっている。	
今後キャンプ場のPRについてはどのように行うのか。	ワーケーションの取組が全国的に広まっており、base55やサンパレスなどでも確立している最中である。現在、ジオパーク推進協議会でも環境省の補助金を活用し、モニターツアーを行っている。 ワーケーションが定着すれば、働きながらバケーション（休暇）を過ごすという室戸のスタイルを確立し、パンフレット作成やPRなどに繋げていきたいと考えている。	
キャンプ場を知っていただくため、まず地元の方に体験してもらおう取組をしてはどうか。	デイキャンプという使い方もあるので、地元の方に向けていろいろ考えてPRしていきたいと考えている。	